



少 併願受験絞る 近 自宅から通学 安 合格圏を志向

大学入試 出願傾向

景気不透明感を反映

私立大の一般入試が中盤を迎え、国公立大2次試験の出願締め切りも迫り、今年の受験生の志願傾向が明確になった。依然として続く景気の不透明感やセンター試験の難化で、確実に合格を狙う安全志向や、自宅通学、併願校の絞り込みという「安・近・少」がキーワードになりそうだ。

2月実施分を締め切った私大一般入試で見ると、NHKの大河ドラマ「八重の桜」で全国的に知名度を上げた同志社大が3%増、前年志願者が増えた立命館大もほぼ横ばい。関西学院大が5.9%増、確定前だが関西大も10%近く伸び、「関関同立」人気は堅調だった。

今年は大入試センター試験の志願者が3.2%増えており、同大は「グローバル地域文化学部の新設と受験人口の増加分で、出願

数を絞り込む傾向に変わりはない」と分析。関学大は「東日本大震災以降に増えた関東圏からの受験は落ち着いたが、今年は関西をはじめ西日本で伸びた」と地元志向の強まりを指摘する。一方、国公立大は1日に発表された2次試験志願状況の中間集計で、倍率は昨年同期と同じ0.9倍だったが、志願者数は減っており、鈍い出足。河合塾は「センター試験の難化で思い通り得点できずに出願を

悩んだり、難関大を敬遠する動きがみられる」といい、安全志向に拍車がかかっている。(梶井進)

ここ数年「安・近・少」というワードが定着してきました。以前は「安」＝「授業料の“安い”国立大学志向」でしたが、今年のトレンドは、必ずしも国立に限ったものではないようです。今後もユーザーの動向を注視し、入居率アップのため最適なご提案をいたします。

マンション・アパート・テナント



2013年2月2日
京都新聞 夕刊より

USAGI通信はメールでの送信も可能です！！

学生ハウジングホームページ → の入力フォームにて
ご相談内容のボックスに「USAGI通信希望」とご入力の上、送信ください。